

第1回

千葉氏サミット議事録

●千葉氏首長フォーラム

テーマ「月星でつながるまちの絆～地域の資産から日本の遺産へ～」

■パネリスト

- ・勝部 修(一関市長)
- ・大橋 信夫(涌谷町長)
- ・佐藤 栄喜(相馬市生涯学習部長)
- ・桜井 勝延(南相馬市長)
- ・蕨 和雄(佐倉市長)
- ・小坂 泰久(酒々井町長)
- ・菅澤 英毅(多古町長)
- ・岩田 利雄(東庄町長)
- ・日置 敏明(郡上市長)
- ・江里口 秀次(小城市長)

■コーディネーター

- ・熊谷 俊人(千葉市長)

■平成28年8月21日(日)

■三井ガーデンホテル千葉

○司会 お待たせをいたしました。お時間がちょっと過ぎてしまいましたが、ただいまから第1回千葉氏サミット「千葉氏首長フォーラム」を開会させていただきます。

初めに、パネリストをご紹介申し上げます。

岩手県一関市長、勝部修様。(拍手)

宮城県遠田郡涌谷町長、大橋信夫様。(拍手)

福島県相馬市生涯学習部長、佐藤栄喜様。(拍手)

福島県南相馬市長、桜井勝延様。(拍手)

千葉県佐倉市長、蕨和雄様。(拍手)

千葉県印旛郡酒々井町長、小坂泰久様。(拍手)

千葉県香取郡多古町長、菅澤英毅様。(拍手)

千葉県香取郡東庄町長、岩田利雄様。(拍手)

岐阜県郡上市長、日置敏明様。(拍手)

佐賀県小城市長、江里口秀次様。(拍手)

以上、10名の方々でございます。

コーディネーターは熊谷俊人千葉市長にお願い申し上げます。(拍手)

それでは、市長、よろしく願いいたします。

○熊谷俊人(千葉市長) では改めまして、皆さん、こんにちは。きょうは大変大勢の皆様方にご出席をいただきまして、ありがとうございます。ここまでのかがでしょうか。野口先生を含めて、大変貴重な話がたくさんあったかと思います。外は親子三代夏祭りで、みこしや太鼓の音が響いている中で、こうして屋内で歴史について語り合うという大変貴重な機会をいただきまして、私は先ほどみこしを担いでいたものですから、少し息が上がって聞き苦しいかと思いますが、どうぞご容赦をいただければと思います。

まず、市長、町長、部長の皆様方、きょうは大変お忙しい中ご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。私ども千葉市は、千葉開府890年ということで、改めて千葉をつくった千葉氏に光を当てて、今もなお東北から九州にかけて縁のあるまちと、その歴史、つながり、交流を見つめていこうということで、今回、皆様方にお声がけをさせていただきました。

我々千葉市は、ある種、本家というところはおこがましいところがございますが、そういう状況でありながら、千葉氏に関するさまざまな史料等が少し散逸しているような状況の中で、それぞれの皆様方のまちの中には、こうした千葉氏のそれぞれの歴史や文化を大切

にいただいているところが多数ございます。私どもは改めて、そうした皆様方の取り組みについて学ばせていただき、ご縁をつくらせていただきながら、これからのまちづくり、またご縁づくりをしていきたいと考えております。

まずは各都市の皆様方から、千葉氏とのかかわりを含めまして、それぞれの市町のご紹介をお願いできればと思います。

まずは一関市の勝部市長からお願いをいたします。

○勝部 修（一関市長） 一関市長の勝部でございます。この前のトークセッションで一関の文化振興会長から紹介がありましたとおり、私自身も千葉系でございます。名前は今、勝部になっていますけれども、この勝部というのも千葉系の一族でございます、これも何かの縁かなと思って、参加させていただいた次第でございます。

先ほど紹介がありましたように、一関を中心とする東北の千葉氏というのは、平泉の藤原4代が滅亡した後、葛西氏と千葉氏、この2つの勢力によって400年、この地を治められてきたわけでございます。残念ながら正確な史料があまり残っておりません。これは、秀吉軍に徹底的に打ちのめされた際に史料が全くなってしまうという、これは敗者の悲しいところでございます。そういう中で、千葉を名乗っている方々がどのぐらいいるのかを調べましたら、全国では91番目に多い姓であるそうでございます。約20万人の千葉を名乗る方がいるそうでございます。岩手県ではどうかというと、4番目でございます。佐藤、佐々木、高橋、そして千葉という順序でございます。しからば一関ではどうかというと、2番目でございます。一番多いのが、やはりどこにでもいる佐藤さんですね。その次に千葉なのです。それだけ一関に多い。一関のすぐ近くの平泉というところにも千葉さんは多い。そして、県境を越えて宮城県の県北に入ると、今日は涌谷町長さんもおいでですけれども、ここもまた千葉を名乗る方々が大変多くいるという地域でございます。

そういう中で、秀吉の時代に入って小田原参陣を求められて、さて、どうしようかというところでいろいろ悩んだ末に、一関の東山の長坂城、唐梅館に千葉一族が参集して軍議を行いました。小田原に馳せ参ずるべきか、それとも秀吉に対抗して戦うべきか。そして、選んだ道が「秀吉と戦おう」となったのでございます。その軍議を再現して、毎年、唐梅館絵巻という行事を行っているわけでございます。これには地元の小学生をはじめ、次の世代を担っていく子どもたちにも積極的に参加をさせていただいております。この行事を続けることが、東北の地にあつて千葉一族がどういう生きざまをしてきたか、それを子どもたちにも教えていく絶好の機会になるのではないかと考えているところでございます。

なお、今年も9月25日に唐梅館絵巻を行います。私は、これを、東北の千葉一族ここにありということを全国に発信する、一関市としての一番大きなイベントとしてやっていきたいと思っております。

それから、きょうお招きいただきまして、全国から集まった千葉一族ゆかりの方々、そして所在する首長さんとお会いして、今日が第1回目でございますので、これを機に横の連携を深めまして、さまざまな面で協力・連携していける、良いきっかけになったと私は思っております。

東北は東日本大震災でかなり被害を受けました。一関も、津波こそありませんでしたが、地震の被害がすごく大きかった。東日本大震災の発生する3年前には岩手・宮城内陸地震がありまして、この時も一関は震源地として徹底的にやられました。そして、ようやくその復旧工事が終わって、「さあ、これからだ」というときに東日本大震災が来たわけです。津波のほうがあまりにも被害が大きいのので、その陰に隠れて、今はなかなか大きな声で津波よりもこっちが大変だとは言えないのですけれども、それでも全国各地からたくさんのご支援をいただきました。遠くのほうから助けていただきました。そして、私どもは、気仙沼、あるいは陸前高田という隣町を、今、一生懸命後方支援しております。私はいつも、近いところを助けると書いて「近助（きんじょ）」と読むのだと。学校の先生には字が違ふぞと怒られるかもしれませんが、でも、近くが助けるということで「近助」と書く。あるいは遠くから助ける、これを「遠助（えんじょ）」といいます。そういう考え方で今やっております。よろしく申し上げます。

○熊谷俊人 勝部市長、ありがとうございました。大変ユニークな、また示唆に富むお話をいただきました。何といたっても私も伺って驚いたのは、千葉さんが2番目に多いということで、こういうところからも歴史を感じるわけであります。

次に、涌谷町の大橋町長からお話を伺えればと思います。

○大橋信夫（涌谷町長） ただいまご紹介いただきました宮城県涌谷町でございます。涌谷町は宮城県の北東部に位置しておりまして、ほぼ中央部、宮城県の玄関口・仙台駅までの所要時間は約1時間です。

涌谷伊達氏につきましては、我々町民の間でも、いわゆる伊達騒動、寛文事件が前面に出過ぎまして、その出自につきましては、亙理より国替えにより涌谷に入府というところまでは一般的でございますけれども、今回、涌谷伊達氏、本姓亙理氏の出身について、千葉氏顕彰会の鈴木事務局長様の涌谷町ご来町にてご教示いただき、改めて心に刻ませてい

ただき、今回の千葉開府890年祭にご案内いただいたということでございます。

亙理氏の出身は、先ほど来のトークセッションでもご案内いたしました、鎌倉御家人、下総国千葉介常胤の三男、武石三郎胤盛氏が始祖でございます。源頼朝により、軍功により宇多・伊具・亙理の3郡を拝領いたすという経過がございます。亙理氏第17代、亙理領主元宗、涌谷伊達氏初代でございますけれども、1591年、伊達政宗が岩出山へ入部した際に涌谷に移りました。現在の涌谷町の中心部の少し小高いところに要害を構えましたけれども、知行が2万2,640石。1606年、3代定宗の代に亙理から伊達姓を許されたという経緯がございます。

先ほど申し上げました要害、涌谷の居城でございますが、これは2代重宗公と3代定宗公が改修し完成し、元禄2年、主要建物が焼失いたしました。この涌谷要害の建物、いわゆる太鼓堂でございますけれども、天保4年に再建いたしまして、宮城県内唯一の城郭、現存遺構として知られております。

第4代宗重公は寛文事件の中核でございますので、18代当主、亙理和彦様が現存して亙理姓を名乗っているという経緯がございます。先ほどトークセッションの際に、この資料で月に九曜の家紋、いわゆる月星紋、これは涌谷伊達氏の家紋でございます。このことも鈴木先生のほうからご教示いただき、改めて亙理家と縁の近さを知った次第でございます。

この踊りを奉納しております妙見宮でございますが、これは古式獅子舞を舞いながら獅子をあやすのでございますが、涌谷伊達氏初代元宗が天文21年（1552年）に京都愛宕神社を分社した際に涌谷に伝えられたとされております。涌谷妙見宮に文久2年（1862年）、獅子舞絵馬が奉納されておまして、これがその裏づけでございます。この獅子を稚児があやす踊りは、文殊菩薩の「文殊よく百獣の王を鎮める」、古き時代の神仏混交の名残とも言われておまして、涌谷伊達氏の家紋、月に九曜紋が獅子の胴巻きに表現されております。この妙見宮のお祭りは、9月第1土曜日、妙見宮宵祭りにて奉納されておまして、来月の第1土曜日に妙見宮にて古式獅子舞が奉納される、このような経過がございます。もし時間がありますれば後ほどご説明申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。（拍手）

○熊谷俊人 大橋町長、ありがとうございます。月星のマークを見た瞬間に本当に私たちは縁を感じるわけであります。

次に、相馬市の佐藤部長からよろしく願いいたします。

○佐藤栄喜（相馬市生涯学習部長） 福島県相馬市から参りました、福島県でも一番名字の多い佐藤でございます。大変申しわけございません。皆さんも多分リオオリンピックで大変感動されたのではないかなと思います。私も感動疲れで今回のこのフォーラムに参ったわけですが、文化系のお祭り、このフォーラムもいろんな意味で感動があると思いますので、ここから文化系の感動、元気をいただいて帰りたいと思っております。きょう一日よろしくお願ひしたいと思ひます。

先ほどから話がありますように、東日本大震災からはや5年半たとうとしておりますけれども、昨年春に災害公営住宅が完成いたしました、その後、順次皆さんお引越しが終わりました、今はそれぞれのライフステージで新たな第一歩を踏み出しているという状況でございます。この間、皆様からいただきました物心両面にわたるご支援に改めて感謝を申し上げたいと思っております。

千葉市さん等との絡みを含めて我が市の紹介をしたいと思ひます。歴史の大家の皆さんがいらっしゃって、内容に誤りがありましたら、その辺は大目に見ていただきたいと思ひます。いくにつくろう鎌倉幕府、時の征夷大將軍でありました源頼朝公の御家人、鎌倉四天王の筆頭、千葉常胤さんの次男に師常さんという方がいらっしゃったのですけれども、この方が平将門公を始祖とします相馬家に養子に入ったわけです。そこからが千葉氏と相馬氏のつながりの始まりだと言われております。当初は今の千葉県の北西、柏、我孫子、流山の辺を領有しておったわけですが、そんなご縁で千葉の流山市さんとは今も姉妹都市としておつき合いをさせていただいております。

百数十年して土地をめぐる争いがありまして、それを避けるという意味で、今の福島県の相馬地方、小高という地域に拠点を移しました。そこで300年ぐらい相馬地方を領有しておったわけですが、今度は東北の雄・伊達政宗の勢力が大きくなって、その間もチャンチャンバラバラやっていたのですが、その脅威に備えるために拠点を北に移しました。それが現在の相馬市の中村地区というところでございます、1611年に中村城というお城を築城しました。その400年後、2011年に開府400年を記念して我々はこのようなイベントの準備をしていたのですが、3月に起きた東日本大震災で全て中止を余儀なくされたところでございます。くしくも400年前の1611年にも慶長の天津波というものがありました、そのときも今回と同じような大きな犠牲があったという記録があります。そういうものを見るにつけても、ちょっと因縁めいたものを感じずにはおれません。

そんな相馬市にも2つの大きな宝物がございまして、ただいま申し上げた中村城、天守

閣はもうないのですが、それ以外の部分は往時を語る貴重な歴史的な遺産として現在も残っておりまして、市民の憩いの場でもあり、心のよりどころともなっております。それから周辺の町並みも、城下町の雰囲気を残そうということで、昨年、和風デザインコードというものを設けまして、その最たるものが今建築中の市庁舎、これも切妻造の黒塀、白壁の、ちょっと全国にも類を見ない庁舎なのですけれども、これは9月、来月完成します。ぜひいらっしゃっていただきたいと思います。

もう1つ、野馬追という国指定の重要無形文化財がございまして、これは一千有余年の歴史があるのですが、震災の年に中止せざるを得ないような状況になりました。そのとき、隣にいらっしゃる南相馬市長さん等の強力な熱意で小規模ながらも継続して実施できた。これが市民に大きな勇気と元気を与えまして、その後の復興の大きな後押しになったというものでございます。以上、駆け足で申しわけございませんが、相馬市の自己紹介をさせていただきました。ありがとうございます。(拍手)

○熊谷俊人 佐藤部長、ありがとうございます。相馬市に対して、我々市民も東日本大震災の復興支援ということで伺った際に、妙見とのつながりですとか千葉氏とのつながりについて改めて感じて、興奮して戻ってこられた市民の顔を今でも思い出します。これからも引き続き我々も復興の支援をさせていただければと思っております。

続きまして、南相馬市の桜井市長からお話をよろしく願いいたします。

○桜井勝延（南相馬市長） 福島県南相馬市長の桜井勝延でございます。歴史の話についてはほとんどわかりませんが、先ほど相馬の生涯学習部長がおっしゃった流れで、千葉氏との関係がある。皆さん、現代のお話はよくわかると思うので、東日本大震災の話をする前に、今、相馬家の33代当主、和胤さんがいらっしゃいますけれども、和胤さんの奥様は麻生太郎財務大臣の妹でありまして、その和胤公の母親は尾崎行雄の娘の相馬雪香さんという方でございますので、相馬家はほどほどの血筋であるということを申し上げただけでございます。

そういうところから、地域を預かっている者として、今、400年前の話をされましたけれども、慶長の大地震がありまして、あのときも津波が来たのですね。700人あまりが亡くなったという記録がありますが、歴史は伝承されませんでしたので、今回、南相馬市には21メートルの津波が来ているわけですけれども、ここで636人亡くなっておりまして、現在もまだ111名が遺体も上がっていない。加えて起きた原子力災害、東京電力福島第一原発の事故で、日本で一番避難を余儀なくされた南相馬市でありまして、6万2,000人近

くが市外に避難を余儀なくされておりました、今現在も残念ながら日本で一番避難を余儀なくされております。約9,500人以上の転出者を加えますと、いまだ2万6,000人あまりが避難生活をしている。熊本の皆さんも本当に大変な思いをされているわけですが、今現在、2万6,000人もの避難者を抱えているのは南相馬だけではないかと思えます。

強制避難1万4,000人いた地域も含めて、先月12日に避難指示が解除されました。まだまだ東日本大震災からの復興、また原子力災害からの復興というのは容易ではありませんが、この首都圏に来ると、東京オリンピックを中心に、東日本大震災は福島に矮小化しようという動きになっていることを本当に残念に思いますし、この間、マスコミが果たしてきた役割について考えますと、この国は誰が主体なのかということを常に現場から考えさせられる毎日であります。

相馬野馬追の話をしみますと、一千有余年続いております。相馬地方に入って700年あまり続いておりますが、震災の前の年から私が執行委員長という最も重要な役割を果たさなければなりませんので、その歴史ある思いを住民、領民の安寧のために、また命を救うために、生活を再建するために、日々汗を流ささせていただいているということでございますので、今後とも、千葉氏との関係も踏まえて、千葉でも東京電力に関しては悩むことが大分あるかとは思いますが、ぜひ、我々と協力しながら、原子力災害からの復興についてはご協力いただければと思います。ありがとうございました。(拍手)

○熊谷俊人 桜井市長、ありがとうございました。原発事故、また震災復興に関しては、私たちも無縁ではないと思っております。ちなみに、千葉1区の田嶋衆議院議員が第一原発事故直後に福島のほうの現地対策本部長という形で、桜井市長とは交流があったということで、何かと南相馬のいろいろなお話を伺います。このご縁を機に、長い戦いかと思えますので、これからも我々もいろんな形でかかわらせていただければと思います。

次に、佐倉市、蕨市長よりお話を伺えればと思います。

○蕨 和雄(佐倉市長) 佐倉市長の蕨和雄でございます。本日はお招きいただきましてまことにありがとうございます。佐倉は、どちらかというと、江戸時代、江戸の東を守る軍事上の要衝地といたしまして、佐倉藩11万石の城下町として栄えました。幕府を政治的・軍事的に支える一方で、学問にも非常に力を入れておりました。佐倉順天堂に代表される蘭医学をはじめ、幕末から明治にかけて、さまざまな分野で偉人をきら星のごとく輩出した地でもございます。

そして、時代をさらにさかのぼりますと、下総千葉氏の本拠地でございます中世の佐倉

城、お隣の酒々井町さんが9割ぐらいを占めているのですけれども、本佐倉城がござい
ます。国指定史跡本佐倉城跡は、佐倉市と千葉市とのかかわりを語る上で欠くことができな
いわけでございます。

佐倉の地名でございましてけれども、本佐倉城跡周辺の佐倉市大佐倉、また酒々井町本佐
倉に佐倉の地名がございまして。現在の佐倉の起源の1つがそこにあるのではないかと考え
ております。

本佐倉城の城主千葉勝胤でございまして、『雲玉和歌集』の編さんを主導しておりま
す。その序文に書かれておるのですが、「平のなにがしと申したてまつりて弓馬の家にす
ぐれ、威を八州にふるひ、諸道に達して政を両総にをさめ、なかにも大和歌にこころをよ
せて佐倉と申す地に幸草（さきくさ）のたねをまき給ふ」とございまして。当時の佐倉が下
総の政治、経済、軍事、文化において重要な位置を占めていたことがわかるわけござい
ます。

この序文から、千葉氏につきましましては、武力だけではなく、文化面でも大変な貢献をし
ていたことがうかがわれます。市内には勝胤寺や海隣寺に代表される千葉氏ゆかりの寺院
が現在もございまして。この2寺につきましましては、市の指定文化財にもなっております、千
葉家当主をはじめとする一族の供養塔群がございまして。また、妙見信仰を起源に持つ神社
も幾つかございまして。これらのほかにも、現在の佐倉市では、千葉氏が残した政治、軍
事、経済、文化の足跡を現在も目にすることができるわけございまして。

本日は、千葉氏ゆかりの日本各地の市町の皆さんからさまざまな貴重なお話をお伺いす
る中で、新しい発見をしながら、また歴史を振り返ることができるということから、非常
に楽しみにしてきたところでございまして。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

○熊谷俊人 蕨市長、ありがとうございます。蕨市長も千葉氏の関係だということが今
回わかったということも伺いまして、改めてそういう縁も感じる次第でございまして。

すいません、私のコーディネーターもまずかったわけでありまして、このまま皆様方のお
話を伺っていますと実は終わりの時間に来てしまうということございまして、少しスタ
ートが押してしまった関係もあるので、私どもはうまく調整をしたいと思っておりますが、若干
コンパクト目をお願いできればという失礼なお願いでございまして。

それでは、酒々井町の小坂町長より、どうぞお話をよろしく願いいたします。

○小坂泰久（酒々井町長） 酒々井町長の小坂でございまして。前のスライドを見ていただ
きたいと思っております。

今ここに見えます全景、手前側に見える一団の土地が国の史跡になっているところがございます。そして、上のほうに見えるところに未指定の地域がございます、四角の部分をトータルすると約35万平米の城ということで、ほとんど手つかずのままに残っている城でございます。

これが千葉氏のいたときの本佐倉のお城と、それを取り巻く地域でございます。先ほどの岩橋輔胤は、こちらのほうにいたわけでございます。

これが本佐倉城の主郭の部分と周りの外郭の部分といいますか、侍屋敷、城下町、それからその周りを囲むように城館、神社、寺院等がございます。それで、大きく囲んでありますところが総構えの想定線ということで、単純に申しまして、中の赤に対して、この規模の大きさというのがわかると思います。

千葉家は1590年に滅んだわけでございますが、千葉の遺品が残っております。それがここにあります幕府の野馬会所ですが、酒々井町に戦国時代から馬を操っていた牧士頭がおります。ここに点線でずっとあるところが佐倉の七牧といいます。大体180平方キロメートルという区域だそうでございます。そして、下の3つの柳沢、小間子牧、高野牧が後に佐倉藩の管理になり、上の4つにつきましては幕府直轄ということで、そのような形をとっております。

千葉介が延徳2年（1490年）6月に市を立て、8月12日にまちを立てたということで、そのときに競馬（きそいうま）というのをやっておったようでございます。ここにあります八坂神社から高札場というところで、この高札場には大佐倉の八幡社のみこしが来て、ここのお仮屋で滞在される。八坂神社から高札場まで大体200メートルを駆けたということで、おもしろいのは子どもが馬に乗って、その後大人が追いかけるという競馬の記載が江戸時代にもあります。千葉宗家の祭りの一部を町人、地元民がやったということの記録でございます。

酒々井町といたしまして、地方創生といいますか、住民の絆と誇りをもう一度復活するために、ここは役場ですが、その隣に中央台公園がございます。ここでその辺の模擬をしていきたいと考えております。本当は8月12日ということでございますが、今年は準備の関係で10月2日に行いますので、ひとつご参加をよろしく願いいたします。（拍手）

○熊谷俊人 小坂町長、ありがとうございます。先ほど牧の話をしていただきましたけれども、何といたっても千葉氏の武力の源は騎馬、馬だったわけでありまして、残念ながら、成田空港ができた関係で、牧、馬産の歴史が大分意識しづらくなってきているわけで

すけれども、我々千葉県は、改めてもう一度そうした馬の文化を見直していくべきだと考えております。そういう意味では、酒々井の試みというのは、酒々井のみにとどまらず、我々千葉が大事にしなければいけないものだと思っております。私も10月に少し顔を出させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、多古の菅澤町長からお話を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

○菅澤英毅（多古町長） 多古町の菅澤でございます。多古町は北総台地の東側に位置しておりまして、成田国際空港の一部に存する町でございます。中央に栗山川が流れておりまして、これが穀倉地帯の中心地でございます。何度か出てまいります千田荘の中心でございます。そういうことから、全国的に有名な多古米の一大産地となっている状況でございます。時代祭といたしまして、ふるさと多古町あじさい祭りと称して盛大に行われている状況でございます。

ということで、自然と文化、歴史に恵まれた多古町、成田国際空港の隣接地ということで、これから発展する状況にあるわけですが、千田荘の所在地が空港整備の第三の滑走路の延長線上にあるということで、先ほど酒々井の町長さんからもお話が出ましたように、野馬追とか、そういう問題のエリアが縮小されてしまっている状況でございます。

千葉氏の勢力の流れの中で、肥前千葉氏の祖と言われる千田大隅守胤貞が1288年から千田荘を支配いたしまして、元弘・建武のころ、北条氏の滅亡を機に、千葉氏一族、胤貞と貞胤の主権争いによりまして争乱が起きまして、土橋城、現在の御所台という地区ですが、これを中心に千田荘も戦乱の舞台になってしまいました。胤貞側の並木城も1336年にこの争乱により落城いたしております。

日蓮宗とのかかわりが強うございまして、千田胤貞が治政していたこの時期に、多古町南中という地区に日本寺を開山いたしまして、1319年、初代貫主となる日祐は、多古の栗山川周辺で胤貞と出会い、説法を唱え、日蓮宗に帰依させています。その後、胤貞の養子として迎えられ、中山法華経寺3世として布教教化活動を展開いたしております。千葉氏の権力を背景に、胤貞の氏寺であります真言宗の巨榮山徳成寺をはじめ、20カ寺以上を日蓮宗に改宗させております。また、1317年、胤貞が日祐を伴って九州に赴任いたしまして、先ほどからお話があります小城市に光勝寺を開山いたしております。境内には胤貞の墓もございまして。

千葉氏宗家滅亡の地として、室町時代中期に、胤直は、鎌倉公方足利氏と関東管領上杉

氏との内紛を契機といたしまして千葉氏一族の争いに巻き込まれてしまい、康正元年に原胤房に千葉城を急襲され、千田荘に逃れてきた胤直は志摩城（多古町島）に、子の胤宣は多古城で防戦しましたが、落城し、胤宣は多古城近くの阿弥陀堂で自害し、胤直は東禅寺に逃れたが、一族郎党とともに自害をしたという状況でございます。胤直は42歳、胤宣は15歳の若さでした。東禅寺境内の西側墓地には胤直らの墓が7基並んでいます。いつまでも地元の人に徳を積まれ、供養されている状況でございます。概要につきましては以上でございます。（拍手）

○熊谷俊人 菅澤町長、ありがとうございます。千葉県の中のゆかりの地は我々もめぐることが容易でございますので、ぜひ、千葉のゆかりのそうしたところをめぐっていく、行政をまたいでしっかり連携していく取り組みをしていきたいと考えております。

続きまして、東庄の岩田町長、よろしくお願いたします。

○岩田利雄（東庄町長） 「利根の川風袂に入れて……」、これは『天保水滸伝』の出だしの一節であります。『天保水滸伝』というと玉川一門が何代にもわたって歌ってきた、かなり人気のある浪曲であります。浪曲の町とも言われております、銚子の河口の1つ手前のまちでございます。名前のとおり、千葉氏の六男坊が所領を加領されまして、東荘、いわゆる荘園制度で本州最東端にあるということから東の荘園と呼んだわけですが、その東荘に移住してきた。そして、千葉の名字から東に変えた。本家、分家とかという言い方が普通ありますけれども、違う領地に移って治めるときには、庶家と書きますが、千葉本家を離れるということですから、千葉氏の家来に等しくなるという意味だと私は解釈をしております。

東氏の一族であります東保胤さんが平成26年にお亡くなりになりました。30代目でありました。今、31代目の義雄さん、これは甥御さんなのですが、お子さんがなかったために兄の子を養子に迎えて家を継いでおります。東氏31代目が健在でございます。東氏といえ、先ほど来、私どもの郷土史研究会の土屋さんから縷々お話があったとおりでありまして、私のほうから申し上げると違う話をしてしまったりして申しわけないこととなりますので、この辺は割愛をさせていただきますけれども、本州最東端の東の地へ来たというのは千葉県のどのあたりかなと、今、皆さんお思いだと思いますが、今の千葉県の銚子市、旭市、香取市の一部であります。かなりの広大な面積であります。これを所領として、現在まで東氏が健在であるということでもあります。

3代目のときに加領されて、岐阜県の郡上に参りました。きょうは日置郡上市長がおい

ででございます。昨年、町は60周年を迎えました。東庄という由緒ある名前をつけていただいたということで、60年を迎えた、この年に、分家である——今度の場合は分家なので、東から東ということでもありますから。岐阜の分家も来ていただくということでお招きをいたしましたら、快くおいでいただきました。本当にありがたいなと思いました。そして今、郡上おどりが盛んだという話を先ほどされましたが、分家の踊りを本家でもということで、皆さんが一生懸命研究したり習ったりして、郡上とは交流を続けております。この24日もバスを連ねて郡上へ参ります。私も来いということでもありますので、踊りはだめではありますが、郡上へ参りたいと思っているところであります。

長い間の年数を経ても、お互いに郷土を離れ、違う土地で暮らした方たちが、自分たちの先祖が生まれた土地がどこなのだろうということを確認しながら、我が町にも訪れていただけるということは大変幸せなことでもあります。人間は、ある年齢が来ると、自分の血統的なもの話とか、末裔の話とか、先祖の話とか、いろんなことをします。私は非常に大事なことだと思います。町、市も同じだと思いますけれども、基本はそこに住む人たちをいかに大切にするかであります。誰しもが幸せな生活と安心した生活が送れるように、それはどの首長の願いでもあります。

そういうことを重ねると、お互いに離れていても、一族一党のもとに集って、きょう、この会議ができるということは、私は大変ありがたいことだと思っています。このつながりを今後とも大事にさせていただいて、私たちの先祖はこういうことだったということ語り合えるように。最近、親子の断絶よりも、おじいさん、おばあさんと孫の関係が非常に希薄になっているという話がありました。親はなかなか歴史の話を子どもにいたしません。ですから、いい機会であります。学校の関係の子どもたちを含めて、皆さんが何かの機会に子どもたちと一緒にすることがあれば、そういうお話をさせていただければありがたいなと思っています。私も、これからは最大限、千葉一族のもとに町があるということを中心にしながら考えていきたい。

そして、今から10年以上前になりますけれども、『東氏物語』という漫画の本を作成いたしました。これは、なぜ東庄町と言うか、鎌倉時代まで歴史をさかのぼって行って、東氏の歴史を語ることによって子どもたちに町名の由来を知ってもらうということと、これからも長くこの地が平和であって、子どもたちにとってもいいふるさとであるようにという願いを込めて作成いたしました。今回、千葉市も漫画の本をつくっていただいて、ありがとうございました。そういうことで、きょうお集まりの首長の皆さんを含めて、本日、

会場においでの方と一緒に、こういう機会がまたつくればいいなと思っています。どうか熊谷市長には、そういう意味においては総本家でありますので、よろしくお願いを申し上げて、ご紹介にかえさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

○熊谷俊人 岩田町長、ありがとうございました。まちづくりの哲学もおっしゃっていただいて、まさにルーツを大事にする。今、私たちがいるのは何なのかということのルーツをたどっていくことが、ある種、自分たちの物語にもつながってくると思っておりますので、大変大事なことだと思えます。我々千葉市も、皆様方にお配りしておりますけれども、漫画をつくって、今、市内のそれぞれの学校で読んで、これからまさに受け継いでいくような取り組みをしておりますが、それよりもはるか前に東庄町はやっていただいているということで、逆に東庄町の漫画を千葉市の図書館に入れていくということも含めて、取り組みを連携させていただければと思っております。

それでは、東氏つながりということで、続きまして郡上市の日置市長、よろしくお願いいたします。

○日置敏明（郡上市長） パワーポイントをお願いします。

お隣の岩田町長さんのところの東庄町から、あと5年たちますと800年になります。承久の乱でご縁ができたわけですので、1221年でございますから、あと5年たつと800年ということになるのですが、はるか昔に東庄町から東氏が郡上市へやってきたということになるわけです。

郡上市、郡上市と言っておりますが、皆様、これを「ぐんじょうし」と読まないでください。「ぐじょうし」と読んでいただきたいと思いますが、どこにあるかといいますと、岐阜県地図が出ております。岐阜市から北方60キロメートルほどのところでございます。名古屋市から約100キロメートルということで、ちょうど岐阜県の真ん中辺でございますが、面積は1,030平方キロメートルということで、かなり大きな市でございます。平成16年に郡上郡の7カ町村が合併をして今日の郡上市に至っております。人口は4万2,000人。そして、郡上市というと長良川の流域とだけ思っていただけるかと思いますが、右のほうに書いてございますように、郡上市は日本列島の中部圏の真ん中辺にございますので、長良川のほかに、太平洋岸へ流れる木曾川の源流域でもありますし、加えて日本海側へ流れる庄川、九頭竜川の流域も持っています。

このようなどころでございまして、郡上市といいますと、先ほどお話がございましたように、今、郡上おどり、右端の写真が1つの風景であります。最終盤に向かっておりま

す。9月3日が最後の踊りの晩ですけれども、こんな踊りの夏を迎えております。そのほか、郡上市はスキー場、長良川の鮎ということでも大変有名です。私が郡上市を紹介するときに大変好きな文章がございます。それは、「美濃国は、北方は山波をかさねている。その山巒を削るようにして長良川が奔り、上流へゆくほど隠国（こもりく）の観がふかい」。昔は大変山で、この先に人の住むところがあるのだろうかと思われるようなところであったわけです。これは、実は司馬遼太郎さんの『街道をゆく』という、昭和40年代にいらっしゃったときの郡上を紹介していただいた最初の文章に出てまいります。今は東海北陸自動車道が郡上市を南北に走っておりまして、もう隠国という状態ではございません。北陸と太平洋岸がつながっているところでございます。

そういうことで、郡上市の代名詞的なものとして長良川がございます。実は今年の12月に、山や川や人々の営みを鮎に代表させて、清流長良川の鮎ということで、FAO（国連食糧農業機関）の世界農業遺産に認定されました。私たちは、これを生かしていきたいと思っております。その認定は、もちろん郡上市だけでなしに、郡上市、美濃市、関市、岐阜市の範囲にまたがっております。

それから、郡上を特色づけるものに、先ほど来の東氏文化のほかに、もう1つ、白山文化というものがございます。白山の主峰は郡上市の範囲の中には入っておりませんが、白山に連なる山々を持っておりまして、私ども郡上も、来年が白山開山1,300年という年になりますけれども、白山神社をはじめ、白山文化というものも色濃く持っている地域でございます。

長良川に沿って長良川鉄道という第三セクターの鉄道が走っております。72キロメートルほどありまして、経営に大変苦勞しております。今、観光列車を入れたところでございます。ユニークな鉄道経営としては千葉県のですみ鉄道がございまして、大変有名ですが、この間、私ものですみ鉄道を見させていただきました。

そこでおいしい料理を出しております。料理を出す列車は運賃を合わせて1万2,000円でございます。どうぞご利用いただきたいと思います。私がこの第三セクター鉄道の社長をしている関係で、ちょっとPRをさせていただきました。

歴史の話に入りますと、先ほどの金子さんの話に尽きておりますが、大きな系図でお話をさせていただきたいと思います。東氏、それから恐らく東氏の一族だと言われておりますが、遠藤家に代わりまして遠藤慶隆、先ほどお話が出ました慶隆の妹の千代が郡上では山内一豊の妻に間違いはないということになっておりますが、その遠藤家は、藩主が子どもの

ときに亡くなってしまって、数代でつぶれてしまいますが、遠藤家を残すということで、幕府は1万石の大名にして、近江の三上藩——三上山という山がございます。この件については、先ほどの東庄の土屋会長さんの資料でも述べていただいておりますが、ここが遠藤家という形で続いておりますが、この遠藤家が明治になって、明治天皇の許可を得て、もともと東氏に連なるものであるということで東氏を名乗ります。遠藤家は明治になって東氏に復姓をしますが、このうちに、先ほどから話に出ております古今伝授の里フィールドミュージアム等に展示をしております、たくさんの『古今和歌集』に関係する文物が伝えられて、それをまちのほうに寄附していただいたということがございましたので、このことをご紹介申し上げたいと思います。

先ほどもちょっとご質問がございましたが、今このフィールドミュージアムを使っていることをやっております。特に、和歌、短歌の伝統に連なるまちということで、例えば、歌となる言葉とかたち展という、短歌をつくっていただいて、造形作家がその短歌を見ながら彫刻であるとか、いろいろなものを考えて、短歌と造形美術とを組み合わせで展示する、こんなこともやっております。

また、郡上にはゆき椿とやぶ椿の自然交配によるゆきばた椿というものがあって、こういうものの祭りも毎年やっております。

それから、先ほど先生からご質問がありました古今伝授の里・現代短歌フォーラムということもやって、現代に生かしていこうとしております。

先ほど「くるす桜」という常縁を題材にした能を復元したとっておりますが、単に専門家がやる薪能を見るということだけでなく、地元のまちの子どもたちが「くるす桜」等の謡曲と仕舞も一生懸命勉強しております。

そのほか、短歌については、親子短歌教室であるとか、常縁につきましては、古今伝授のほかに、応仁の乱のときに篠脇城という城を斎藤妙椿という武将に奪われた。先ほどの一族の乱があったので、こちらへ来ていたときに城を奪われたということで歌を1首詠んだら、斎藤妙椿という武将が非常に感激をして、さらに歌をつくってくれば城を無血開城するというので、東常縁は10首ほどの和歌を贈って城を返してもらったという話がございます。先ほどの司馬遼太郎さんの『街道をゆく』という本の中には、東常縁は歌10首で血を流さずに城を返してもらったということで、日本で一番高い原稿料を取った人だと書いております。以上でございます。(拍手)

○熊谷俊人 日置市長、ありがとうございます。内助の功で有名な千代も千葉氏の系譜

かもしれないというお話もあって、大変広がりを感じるようなお話をいただきまして、まことにありがとうございます。

それでは、小城市の江里口市長からよろしく願います。

○江里口秀次（小城市長） 皆さん、こんにちは。九州佐賀県の小城市から来ました市長の江里口と申します。きょうは第1回目の千葉氏サミットにご案内いただきまして、本当にありがとうございます。きょうは千葉の若殿にお会いできまして大変感動しております。早速ですけれども、小城市の紹介並びに千葉氏との縁についてはパワーポイントで説明をしたいと思います。

まず、小城市がどこにあるかということですが、北部九州の福岡、長崎の中間に位置しておりまして、佐賀県の中では佐賀市の隣、西側に小城市があります。ちょうど佐賀の真ん中ですね。

小城市は平成17年に4町で合併しておりまして、人口的には4万5,600人ぐらい。小城羊羹とか、有明海の花が非常に有名なところです。

小城市を空から見た、この写真ですが、南のほうの有明海になりまして、北のほうの1,000メートルぐらいの山が連なっているところの麓に、千葉氏がつくった千葉城というお城があるわけです。

千葉氏との縁ですが、もともと千葉氏は宗家のほうから小城市に来ていただいておりまして、頼胤公、宗胤公、胤貞公ということで、特に胤貞公が小城市に下向して、小城市のまちづくりを始められたということになります。

千葉氏のまちづくりですが、先ほど空からの写真を見ていただいたのですが、千葉城が小城市の北側にあります。そして、胤貞公のお父さんであります宗胤公が禅宗の円通寺を再興して、その子どもの胤貞公が小城市に定着して、千葉城、あるいは妙見社、須賀神社、日蓮宗の松尾山光勝寺を建立しております。ちなみに、千葉城は、今、千葉城址ということで、西日本最大の山城です。遺構がそのまま残っておるお城です。

このまちづくりは、千葉、龍造寺、そして江戸時代の佐賀鍋島藩につながっていくわけですが、千葉氏は龍造寺とも縁があり、佐賀鍋島藩の藩祖であります直茂公を千葉氏のお殿様が一時養子にしていたということで、このように、上のほうの中世の千葉城を中心とした千葉氏によるまちづくり、鍋島による町人町、武家屋敷のある下の城下町という形で、千葉、鍋島ということで、まちづくりがずっとつながっているということになります。

そういった意味でも、中世から近世、近代へのまちの移り変わりがそのまま実感できるまちでありまして、歴史と文化が引き継がれて、これが今の小城市のまちづくりの基礎となっているわけでございます。

千葉城址のありますところに祇園社が建立されて、今、須賀神社となっております。そして、先ほど言ったように、胤貞公が小城に定着してまちづくりを始められたのが1316年ということでございますので、今年はちょうど700年を迎えます。ですから、祇園祭がずっと引き継がれておりまして、今年、700年を迎えた祇園祭が開催されたということでございます。

そして、1つだけ、きょうは皆さん方にこれだけは話したいというお話があります。千葉氏との不思議なお話をしたいと思いますが、小城市は平成17年に合併したのですけれども、そのときに、市になったのだから市のマークをつくりたいということで全国公募しました。国内外から約1,800件の応募がありまして、その中で青森の方が提案したマークが市章として決定したわけです。これです。これが小城市の市章です。これは漢字の小城の「小」をモチーフにして、オレンジの太陽、空と海をあらわす青、緑の大地ということで、これが小城市の市章として1,800件の中から選ばれたのです。あるとき、ちょっと気づいたのですね。これをくるっと回して斜めにして緑を取ると、まさにこれになるのですね。千葉氏の家紋になったのですね。最初、小城の市章を選定するときは、そういったことは考えなかったかもしれませんが、やはり千葉氏のDNAが残っていたのかなという不思議な話で、勝手に私が思っておりましたけれども、そのように縁があるということをご報告したいと思っています。

最後になりますけれども、九州の小京都と言われている小城でございますので、九州に来られるときがあれば、ぜひ小城のほうにお越しいただきたいと思っています。以上でございます。ありがとうございます。(拍手)

○熊谷俊人 江里口市長、ありがとうございます。市章のお話をいただきまして、ありがとうございます。我々千葉市の市章も、千葉氏の家紋と千葉の「千」という漢字を当ててつくられておりますので、そういう意味では、我々のほうも大変ゆかりのある市章でございます。小城をはじめ佐賀は、もともと本家だったということもあって、千葉氏に関して大変大事にさせていただいておりまして、私も佐賀に行くと、関係の多くの方々から、千葉市からお越しになったのですかということをおっしゃいます。ちなみに、維新で活躍した江藤新平も千葉氏になります。佐賀に関係する方々は千葉氏が大変多いわけであり

ます。

さて、それぞれの市長、町長等からお話をいただいたわけではありますが、残された時間で、ここから少し意見交換をしたいと思います。先ほど来、いろんな形で千葉氏に関する話がありました。例えば、千葉周作、北辰一刀流であったり、もしくは『武士道』を書いて、世界中に武士道の存在を知らしめた新渡戸稲造も千葉氏の系譜でございまして、私たちのまちも、武の歴史であったり、日本の歴史と切っても切れないわけではありますが、残念ながら、たくさんのストーリーが散らばっているような状態の中で、なかなか体系化されていないところがございます。これから私たちは、それぞれの11市町、さまざまな関係の方々との連携しながら、こうした千葉氏のストーリーや歴史について、改めて知名度も認知度も上げていかなければいけないと考えておりますし、また、それぞれのまち同士の交流も深めていきたいと思っております。

そういう中で、今回の第1回千葉氏サミットを契機に、これからどういうことを連携して取り組んでいくべきかということについて、それぞれの首長の皆様方からご意見やアドバイスなども頂戴できればと考えておりますが、いかがでしょうか。控室で少し盛り上がった話で振らせていただければと思っておりますが、佐倉市の蕨市長から今後の取り組みなどについてご意見を頂戴できればと思っております。

○蕨 和雄 千葉氏は活動範囲が非常に広い。さまざまな分野で活躍されているのですが、何分にも史料がそんなに豊富ではないということで、こういった千葉氏サミットを続けることによって、全国各地からいろんな史料が発掘されるのではないかと期待しているところがございます。それによって、また千葉氏の歴史がもっともっと明らかになってくるということをお願いしたいと思っております。

もう1つは、先ほど東北の震災の件がありましたけれども、こういったサミットを通して、お互いに自然災害があったときに助け合うということも、サミットの目指す方向といたしまして、将来的には織り込んでいったほうがいいのではないかなと思っております。以上でございます。

○熊谷俊人 ありがとうございます。まさに史料の発掘・収集というのは、関係のある市町で組んでこそ、さらに活発になると思います。また、災害時の相互支援も、せっかくゆかりのまちでございますので、しかも、いい意味で全国に散らばっておりますので、どちらかが災害を受けても、残りの地域で助けることができるという関係もでございます。こうしたことは、すぐにできる連携かと思っております。

ちなみに、史料の発掘・収集という観点では、先ほど控室で一関市の勝部市長からも少しご意見をいただきましたので、この場でも少しお話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○勝部 修 今回、第1回のサミットを開催させていただいたわけですが、せっかくの機会ですから、私は、1つの提案として、これからもサミットを継続して開催していただきたいという思いは大変強いものを持っています。その際に、非常にテーマが絞りにくいところもあると思うんですけれども、できるだけテーマを絞って、第2回のサミットはこういうテーマ、これとこれでやると決めてやるのも1つの方法かと思えますし、もう1つは、子ども向けに本をつくっているという自治体も結構あるようでございます。それぞれの自治体が図書館をお持ちのはずでございますので、サミットを構成する自治体の中で千葉一族に関する本の巡回展を行うことはどうかと思ひ、今ひそかに来年度の予算はどのぐらいかかるかなと考えていたところでございます。

○熊谷俊人 勝部市長、ありがとうございます。我々も、第1回と銘打っておりますので、次回、第2回を開催する際は、さらにどういうところについて連携を深掘りしていくのかということで考えさせていただきたいと思っております。

また、図書館については大変重要で、図書館の第一の役割は、何といたっても郷土に残る史料や、また物語をしっかりと文書化、資料化して、財産として守って、そして次代に受け継いでいくというのが図書館の一番重要な役割でありまして、そういう意味では、今、千葉氏に関するさまざまなものは、言い伝えや、いろんな形で散りばめられているわけですが、それをしっかりと次代に継承できる形に資料化していくということが大変大事だと思っております。ぜひ、こちらについてもそれぞれの市町と連携させていただいて、連携した史料の残し方であったり、また連携することで市民の皆様方、子どもたちがそれぞれの史料を見ることができるようにつくっていくのか、このあたりについて詰めさせていただきたいと考えております。

それ以外につきまして、それぞれの首長の皆様方から少しお話を伺いたと思いますが、いかがでしょうか。江里口市長、よろしく願いいたします。

○江里口秀次 きょう『千葉常胤公ものがたり』という漫画本をいただきましたけれども、それぞれのまちでも、特に江戸時代になると、例えば藩祖、初代、2代という形での漫画をつくったりしていますが、子どもたちに結構人気があるのですね。私は、これの続き、例えば小城市版、これから小城市がどうできたのか、千葉氏がどうかかわってきたの

か、そういったものをつくりたいという思いがあるのが1点。

もう1つは、名前の姓ですけれども、実は小城市も独特な姓があります。これは、千葉氏が関東から小城に来たときに関東武士を連れてきた、その姓がそのまま残っております。例えば円城寺とか、飯篠とか、真名子とか、そのような独特な姓があるのですけれども、そういった方々に呼びかけたら、皆さん、ああ、そうだったんだと言ってびっくりされて、また喜ばれますので、ルーツ探しではないのですけれども、そういったものもできたらおもしろいかなと思っておりました。以上でございます。

○熊谷俊人 ありがとうございます。漫画のそれぞれの氏、六党がどのように続いていたのかということも大変重要だと思いますし、また、千葉氏にかかわる姓についても注目してみてもどうかというご意見もいただきました。私もいろんな方々から、実は自分は家来の末裔だったんだよというお話をいただいたり、それぞれにまたストーリーがあるかと思います。きょうは臼井日出男元衆議院議員にもお越しいただいていますが、臼井氏も千葉氏のゆかりの一族でございますので、そういった意味では、千葉氏でやるだけではなくて、そのゆかりにスポットライトを当てるといのは大変ユニークなご意見かなと思っております。

ほかにもご意見がございましたら、どうぞよろしく願いいたします。多分岩田町長から少しお話があるのではないかなと思っておりますが、いかがですか。

○岩田利雄 全国では、ゆかりのある地域の方たちがサミットを繰り返しております。私は、何百年も前の話になるのですが、ルーツとしては非常にユニークだなと思っております。私たちはどこから来たのか、どういう形で今ここに住んでいるのかということが、意外と何百年もたってしまうと薄れるものであります。実は、郡上の合併前、大和町の時代であります。月に丸の家紋のお宅はありませんかということからスタートしたのです。それは、郷土史研究会の方が、その家紋があるお宅を知っていますかということでお見えになったのです。あるところで、その家紋は知っているよと言われて、行ったのが1軒あって、また調べていったら町内に3軒ほどあるのです。それは先ほど申し上げました東の末裔の方の家と、先ほども出てきましたけれども、木内さんとか、海上と書いて「うなかみ」と読むのですが、全部その地域へ行って、その地域を治めた形で、千葉の一族がその地域の地名を名乗った。地名を名乗っているのだからわからないのです。千葉氏ということはわからないのですが、家紋によって結ばれたということがありました。先ほども家紋を見せていただきましたけれども、そのようなつながりを調べていくだけで非常に

興味があったのではないのかなと思います。

今後どういう展開をするかという課題でありますけれども、せっかくのお集まりでもあります。もっと根深いものがあるかと思うので、掘り下げていけば、この関係者よりももっと多くなっていくのだらうと思います。それを千葉市でやっていただければありがたいなと思いますけれども、よろしく願いいたします。

○熊谷俊人 ありがとうございます。家紋というのはルーツにかかわるものでございまして、月星だけではなくて、例えば九曜紋をお持ちの家は実は結構多うございまして、たどると千葉氏に来るケースもたくさんございます。そういう意味で、改めて先祖について調べていくきっかけという意味でも大変おもしろいのかなと思いますので、ご意見として受け止めさせていただきました。

ほかに今後の連携、取り組みについてご意見がございませうでしょうか。それでは、大橋町長、よろしく願いいたします。

○大橋信夫 千葉氏サミット共同宣言案というものが今私の目の前にあるのですが、案の2項目に、千葉氏に関する歴史や文化について、日本遺産認定を目指すとあります。この日本遺産は、文化庁が2020年東京オリンピックまでに全国で100カ所指定しようとする事業で、既に37カ所指定されております。このように広範囲に共通の項目で大きな目標にする場合は、各自治体の認証が必要なのですけれども、これだけの首長さんが、1つのテーマで、きょう心を一つにしたので、ぜひ日本遺産認定を目指して、100カ所のうちの1つの文化というふうにしていただければと思います。以上です。

○熊谷俊人 大橋町長、ありがとうございます。いかがでしょうか。まさに日本遺産というのは、広範囲にわたるものを紡いで遺産として認定していくという取り組みでありまして、千葉氏のように歴史的にも大変重要な役割をそれぞれの地域において残しているという意味では、日本遺産という議論は十分にあるかと思ひます。ぜひ、そうしたことについても連携をして、ともに日本遺産を目指させていただければと考えております。

時間も限られてまいりました。もし、もうお一方、今後の取り組みについてご意見がございましたら、ぜひお願いいたします。それでは、小坂町長、お願いいたします。

○小坂泰久 千葉氏といえば馬ですよね。馬つながりといいますか、そういうものは、かなり日本的な広がりがある中で、日本遺産といいますか、その辺に皆さん方の力を合わせた中で、千葉市さんが中心になってまとめていただくのが一番いいのかなと1つ思ひました。

もう1つは、キーワードとして、皆さん方の地域のどこにもお城があるということで、城つながりといえますか、そういう面での協力もできるか、なとちょっと思ったわけでございます。以上です。

○熊谷俊人 ありがとうございます。馬、そして城というキーワードを頂戴いたしました。馬に関しても、相馬、南相馬は、まさに相馬の野馬追が何といても有名でありますけれども、もともとは千葉が野馬追をやっていたであろうと言われておりまして、今、鎌ヶ谷のほうで少しやっていただいたりしておりますが、今でも千葉は馬術クラブが一番多い県でもございまして、実は今でも馬を愛好する方々は多うございます。そういう意味で、これは関係市がうまく連携しての話にはなろうかと思いますが、ぜひ1つのキーワードとして意識をさせていただければと考えております。

これまでさまざまなご意見をいただきまして、まことにありがとうございます。実は親子三代夏祭りのほうでも千葉真一さんがゲストで、まさに千葉常胤役で出ていただいております。その千葉真一さんも、千葉常胤をはじめとする千葉氏の歴史というのは、もっともっと有名になるべきなのだ、もっともっと広める取り組みを千葉市、関係市と一緒にぜひやっていただきたい、私は大河ドラマにもいろいろかかわってきたけれども、十分にそういうものが狙える、それぐらいの素材だから、ぜひ今後もかかわらせてほしいというようなお話もいただいております。

千葉市は、まちのルーツにかかわる一族と現在の都市名が同じ都市であります。全国の主要な都市を見ても、まちのルーツに深く起因する一族と同じ都市名を現在においても冠しているというのは大変珍しゅうございます。合併等でなくなっていくまちも多い中で、私たちは、そういう意味で名前を背負わせていただいておりますので、これからも連携の柱に取り組みさせていただきたいと思っております。

それでは、先ほど少しご紹介いただきましたけれども、これまでの意見交換の成果を共同宣言として発表させていただきたいと思っております。お手元の資料の中に宣言文の案を折り込ませていただいているかと思いますが、改めて私のほうで読ませていただきます。

千葉氏サミット共同宣言書

人口減少・少子超高齢社会を迎え、各自治体が将来においても持続的に発展していくため、地方創生に向けた様々な取り組みが行われています。

本日、サミットに参加した千葉氏にゆかりのある自治体は、社会が大きく変革した中世において、いずれも「千葉」一族によって、まちが成立し、発展をとげてきた歴史を持つ

ており、血縁の深い絆や厚い信頼の上に、互いに固く結束していたことをここに再び確認いたしました。

この縁を大切に、これからも「千葉氏」という共通の歴史的、文化的資源を通じた相互交流により友好関係を深め、それぞれの地域の活性化に向け経済や観光、防災などの様々な分野での連携を促進するとともに、次のような取組みを進めることとし、ここに宣言いたします。

一、「千葉氏」の全国的知名度の向上を目指します。

一、「千葉氏」に関する歴史や文化について、「日本遺産」認定を目指します。

この宣言文案につきまして、何かご意見、ご提案はございますでしょうか。よろしゅうございますか。皆様もよろしゅうございますでしょうか。（拍手）

ありがとうございます。それでは、本日の成果として、共同宣言書をこのとおりまとめさせていただきます。

皆様、長時間のご議論ありがとうございました。この千葉氏サミットは今回で終わらずに、我々千葉市に関していえば千葉開府900年であり、それぞれのまちでは今後も続いていって、一過性に終わらないように、我々もしっかり取り組みをしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、司会のほうにマイクを返させていただきます。

○司会 長時間にわたりましてありがとうございました。大変有意義なお話を聞かせていただきました。「月星でつながるまちの絆」と題して、皆様からディスカッションをしていただきました。

それでは、以上をもちまして千葉氏首長フォーラムを終了とさせていただきます。長時間にわたりまして、皆様、本当にありがとうございました。（拍手）